

急性期病棟、地域包括医療病棟及び地域包括ケア病棟の機能の比較

	急性期一般病棟入院料 1	地域包括医療病棟	地域包括ケア病棟入院料 1
病棟の主旨	急性期医療を行う	高齢者急性期を主な対象患者として、治す医療とともに同時に支える医療（リハビリ等）を提供することで、より早期の在宅復帰を可能とする。	① 急性期治療を経過した患者の受け入れ。 ② 在宅で療養を行っている患者等の受け入れ ③ 在宅復帰支援
主な施設基準	看護配置 7 対 1 以上	看護配置10対 1 以上	看護配置13対 1 以上
在院日数	平均在院日数16日以内	平均在院日数21日以内	算定可能日数60日以内
救急医療体制	－	24時間救急搬送を受け入れられる体制を構築していること 画像検査、血液学的検査等の24時間体制 救急医療管理加算等による評価	二次救急医療機関又は救急告示病院 ※ 200床未満の病院の場合は救急医療の体制 ※ 一般病床の場合
救急実績	（地域医療体制確保加算等で実績に応じた評価）	緊急入院割合:緊急入院直接入棟 1 割5分以上	自宅等からの緊急患者の受け入れ 3 月で 9 人以上
リハビリ	－	理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士 2 名以上の配置、ADLに係る実績要件	理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士 1 名以上の配置
在宅復帰率	80%以上 （分子に地ケア、回りハ病棟等への退院を含む）	80%以上 （分子に回りハ病棟等への退院を含む）	72.5%以上 （分子に回りハ病棟等への退院を含まない）